

千年の森便り No.152

2016.03.18

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

3月13日(日) 曇午後小雨

参加は赤松、秋元、伊藤、鶴沢、及川、久我夫妻、栗山、中田夫妻と子供達、根本、成沢、福島、真鍋、水柿、村野、山口、更に中央博尾崎主任研究員がヒメコマツ調査に来島され総勢23名。

朝一番はニホンジカの調査。いつもどおり7コースに分かれて一斉に調査を行った。真新しい足跡や糞は目撃されたが、残念ながら姿を見ることはできなかった。

また、中央博物館の尾崎主任研究員は試験植栽されたヒメコマツの生育調査を行ったので、今年度入会の会員がサポートした。その後、スハマソウ、オニシバリ、シュンランなどを観察。植生保護柵の中はシュンランが足の踏み場に困るほど咲いていて、シカの食害を受けるネットの外との対比が著しかった。(ちば千年の森をつくる会フェイスブック3月13日記事抜粋)



〇ヒメコマツ成長調査

今年度の入会会員3名(及川、水柿、秋元)で中央博物館尾崎先生のヒメコマツ成長調査のお手伝いをしました。調査方法は根元径をノギスで、自然高をコンバックスで計測し、健康状態は目視による観察を行いました。頂芽枯れ、食跡、根元径、自然高等の専門用語があり私はとまどいましたが、他の会員は慣れた様子で淡々とこなしていました。

千年広場近くの西側平坦地にはネットで囲われた区画があり28本の苗が植えられていました(千年の森便り No.81による)。しかし、すでに数本が枯れ、今回新たに1本の枯れが認められました。また、同時期に植栽されたにもかかわらず、4mに達するものや1m以下の苗と様々でした。これは個体差による成長の違いのようです。個体差には葉の付き方、色の違い等々さまざまです。また、鹿のものと思われる食跡がネットの中で見られましたが状況が良く飲み込めないまま、食跡と記載されました。

禁断の岬南向き斜面では、植樹された7本全ての苗が順調に生育しており、記録簿には『健全』と記載されました。1本の苗には頂芽枯れがあり側芽が太く成長していました。これはホルモン(オーキシン)による作用のようです。頂芽が健全なときはホルモンの作用で側芽の成長を抑制し、頂芽が枯れた時には側芽の生育の阻害が無くなり発達し、太く成長したようです。また、ここでは食跡は見られませんでした。

私はヒメコマツ系統保存サポーターとして、3本のヒメコマツを育て管理しております。この調査体験が今後の、観察と管理に役立つものと思っています。(秋元)



平坦部の調査



頂芽が枯れ発達中の側芽

○ニホンジカ生息状況調査

3か月に1回行っているニホンジカ生息状況調査を行いました。朝一番、吊り橋を渡る前に簡単にミーティングと踏査する7コースの分担を行い、島に一齐に入って9時55分から10時35分の間で各コースを踏査しました。

今回は、目撃や足音、声の確認はありませんでした。痕跡としては、北岸の1コースとホテイ岬で比較的新しい足跡を確認したほか、北岸と広場近くで比較的新しいフンが確認されました。また、ニホンジカのものがどうかわかりませんが、ミヤマシキミの先端部分（花芽？）に食害らしい痕跡がありました。

この時期は、シカによる島の利用の頻度はそれほど高くなく、湖を時々渡ってきて利用している程度と思われます。（福島）



早春の花たち



シュンラン



ヒガンマムシグサ



クロモジ



(番外)スハマソウ(島対岸)

シュンランは、千年の森便りNo.1の記事「かつどうのきろく」に「2003年3月19日（水）、シイタケ植菌の臨時活動日、きのこコマ打ち作業を邪魔する程シュンランが花盛り、最初は踏み付けまいやう気をつけたがあまりに多く、多少踏み付けたり、きのこ原木に踏付けられ・・・」とあります。13年後のいま、植生保護柵の外では殆どシュンランを見かけなくなりました。しかし、幸いにも柵内には沢山のシュンランが自生していて、3月13日の活動日には、皆さん花を踏み付けまいやう撮影に苦心していました。（真鍋）

○野鳥記録

オシドリ10± ホシハジロ5 キンクロハジロ20 カワウ2 オオバン1 トビ2+声 カワセミ声 コゲラ1 ハシボソガラス声 ハシブトガラス声 ヤマガラ声+囀り シジュウカラ声 ヒヨドリ声 エナガ2+声 メジロ2+声+囀り カワラヒワ声+囀り ウソ声 17種

智貴君が助手として、一緒に観察してくれたので大助かりでした。

センサーカメラにはトビの画像が25カットあり、撮影日は2月15日から3月8日までの33日間の内で13日でした。センサーが反応しても、シャッターが切れるまでに時間差がありますから、空振りもあつたはずです。動物が何も写っていない画像が連日あるのも事実ですが、空振りの場合と風で木の葉が動き、その陰に反応している場合の区別は出来ません。となるとほぼ一か月間5メートル四方ほどの非常に狭い範囲の地上で連日行動していたこととなります。写っている時間帯は午前中だけで、午後の映像はありませんでした。25カット中、西を向いているのが圧倒的に多く、23カットだったのも何か理由があると思いますが、現時点では分かりません。（坂本）



センサーカメラにトビ 2月20日 8:46

豊英島の野鳥観察

(中田智貴)

3月13日、今日は豊英島の活動に参加し、鳥の観察をしました。島に入る前にも鳥は結構いて、シメ、トビ、シジュウカラなどの鳥を観察することができました。島に入ってまず目に入ったのは、ヤマガラ、メジロ、コゲラ、この3種は1日中鳴いていました。

暫くしてから坂本さんと一緒に設置してあるカメラの電池を取り換えに行きました。そのカメラに写っていたものにビックリしました。なんと毎日毎日トビがカメラの前で歩いているのです。近くのトビの巣を見てみると少し手入れしてありました。卵を産むか分かりませんが、産んでくれると嬉しいですね (* ^ ^ *)

カメラの電池を交換した帰り、吊り橋から遠くを見るとキンクロハジロ、オオバンの姿が見えました。また上の方ではカワラヒワが鳴いていました。

午後になり、カワウの巣を見にホテイ岬に行きました。カワウの巣はなかったです。岬からはキンクロハジロ、オオバン、ホシハジロが観察できました。オシドリもいたようですが、残念ながら僕は観察できませんでした。

大好きなシュンランを観察できた

(中田夏実)

私は、以前千葉市の公園でシュンランを観察してシュンランが大好きになりました。今回豊英島でシュンランを見れると母から聞き、昨年の春ぶりなのでワクワクしていました。

豊英島は、あいにく小雨がふっていましたが、シュンランは鹿の防護柵の中で足の踏み場もないほど沢山咲いていました。シュンランは黄緑色の大きな花弁と紫色と黄色の中心の花弁からなる花です。控えめな色ですが、きれいです。シュンランなら何でも価値があると思いを違えてとってしてしまう人がいるそうです。でも商業的価値があるのは茎や花弁に、赤や黄青などの色がついているものだそうです。豊英島でみたシュンランにも赤っぽい茎のシュンランもありました。今回たくさんのシュンランをじっくり観察出来てよかったです。



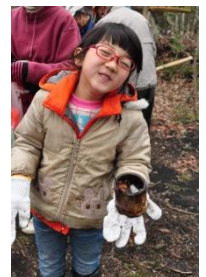
野生ツバキの赤い花に感動

(中田真也子)

今日は、家族みんなで「千年の森をつくる会」に参加してきました。

私が今回感動したのは吊り橋を渡ってすぐに会った野生ツバキ。5メートル以上あると思われました。種から育ててこの大きさになるんですね。大木に、大きな赤い花が沢山咲いていました。園芸品種もさまざまな色や形があってきれいなのですが、野生のツバキののびのびとした美しさにも感動しました。

子供達は、今回は野鳥観察、出始めたいだけ「夏実」やカブトムシの幼虫発見で大喜び。いつ来ても楽しい豊英島です。



○「夏実」が本格的に発生

シイタケ栽培の種菌は、これまで「にく丸 (森 290 号)」を使ってきたが、少し変化を求めて 14 年に「なつみ (もりの夏実)」の種ゴマを打ち込んだ。この春いよいよ本格的に発生が始まったが、にく丸とだいぶ印象が異なるような気がする。もっとも菌種の違いのせいなのか、発生時期やここ数日の天候のせいなのか判断がつかない。夏実は発生期間も長いようなので、しばらくはキノコ談義が楽しめそうだ。(伊藤)



2014 年植菌の夏実

お知らせ

〇4月17日(日) 総会が開催されます。

総会では、年間スケジュール、予算決算、各班担当など具体的なことを決めると同時に、今後の森づくりなどについても意見交換を行います。春真っ盛りの豊英島にぜひお越しください。

なお、欠席の方は委任する旨を記載したメールを事務局(伊藤)まで送付してください。

〇4月から集合場所が変わります。

集合時間 9:30

集合場所 君津市清和自然休養村管理センター(農産物直売所里のめぐみ館併設)

君津市 大岩 286

0439-38-2200 (管理センター) 0439-38-2282 (里のめぐみ館)

なお、鴨川方面の方は、直接お出でください。

